

結（むすび）～龍溪硯の制作を 高遠高校の生徒と共に～

チーム「書」どう？

龍溪硯（りゅうけいすずり）とは

- 辰野町で採石される「龍溪石」で作られる硯のこと
- 江戸時代からその石の良質さから、高く評価されてきた
- しかし、硯工である緑川袈裟美氏が亡くなったことにより、現在龍溪硯を作る後継者が途絶え、龍溪硯は幻の硯となりつつある。

目的

- ①前年度の活動において、伝統文化・芸術を自ら感じる素晴らしさを実感した経験を踏まえて、高遠にゆかりのある「龍溪硯」を、高遠で学ぶ高校生と共に制作していきたい。
- ②高遠藩にゆかりのある「龍溪硯」の制作を、縁の深い地元の高遠高校の生徒と共に行うことで、郷土の誇るべき遺産や書道教育に関わるものについて知り造詣を深めるきっかけとしたい。
- ③本プロジェクトを企画する私たちは、企画・運営、高校生とのコミュニケーション場面等を実際に経験することで、将来教職に就いた際に活かすことができるよう、意義ある学びの場にしていきたい。

方法

- ・ 龍溪石を「硯彫り」することで、龍溪硯を制作する。
- ・ （龍溪硯の作品制作はさまざまな工程があるが…）

高遠高等学校非常勤講師の泉逸男先生のご厚意により、石取り、石割り、石造りの工程を終えた龍溪石をご用意いただいている。

- ・ 今回は高遠高等学校芸術コース書道専攻の生徒と共に、次に挙げる5工程に取り組む。進捗により、内容の詳細は柔軟に変更していきたいと考えている。

①硯彫り

三種類のノミを使って彫る。硯の陸・海の、それぞれを彫った後縁を彫る。次に、硯の裏を彫って、硯自体の据わりをよくする。



②磨き

砥石を使って硯面を整える。
その後、紙ヤスリでよりなめらかに仕上げる。



③彫刻

硯の蓋に彫刻をする。装飾として、蒔絵などを入れる。
彫刻は水に関係する生物が多い。



④虫あなふさぎ

墨を漆で練って、それを薄く塗り小さな穴をふさぐ。
時間を置いたあと、サンドペーパーを使い、表面を磨く。



⑤漆塗り

テレビン油で生漆をのばし、硯面以外を塗る。
硯面は墨を磨くために必要なので塗らない。
数日乾燥させて完成。



計画

○6月～8月

作品制作に向けての打ち合わせ。泉先生による講義。

○9月～10月

高遠高等学校で3～4回の講座を設け、龍溪硯の作品制作。

○11月～12月

成果や学びをパネルにまとめる。

○12月

「信州大学教育学部学生書道展」を開催。活動の成果を公開。

Q & A

A. 昨年までの取り組みから，さらに高大接続を深めている点が素晴らしいです。成果を期待します。せっかくの取り組みなので，昨年行った「信州大学教育学部学生書道展」だけでなく，新聞やテレビ，さらに他の機会も活用し，ぜひ取り組みを広くアナウンスする機会を是非検討してみてください。

→「信州大学教育学部学生書道展」だけでなく、他の媒体も活用して多くの方に周知していただけるよう検討していきたいと思います。

B. 個人情報について：プロジェクト終了後の個人情報の処理について具体的に教えて下さい。

→本プロジェクト中に得た個人情報は、活動終了後に適切な処理で破棄いたします。

C. 継続的な取組となっていると思います。

質問としては、今年度、新規に挑戦していく部分は何かありますか？
応募条件⑫の内容が読み取れなかったので、明示してください。

→今回の取り組みは、前年度の活動の中で生まれた「自分たちの地元の伝統文化である、龍溪硯を作りたい」という高遠高校生の思いを元に立案いたしました。前年度の活動の中で、伝統文化・芸術を自ら感じる素晴らしさを実感した経験から、高遠にゆかりのある龍溪硯を、高遠で学ぶ高校生と共に制作することに意義があると感じました。以上のことから、前年度に比べ、さらに身近であり、より興味や関心に基づいた活動として今回の取り組みに挑戦したいと思います。

D. 消耗品でCOC企画で使用了た物品の流用以外に新規購入をするか（鑿、革手袋）

→ノミ、革手袋はこれまでに購入していないため、新規に購入いたします。（COC企画では泉先生よりお借りしました。）

E. USBメモリ等を10000円の計上はやや高すぎるかと思ひます。

“地域の文化資産を受け継ぐ企画として大切だと思ひます。これまでの成果との繋がりについても触れられると、なぜ今回「龍溪硯」になるかについても伝わるかと思ひます。

→USBメモリにつきましては、検討した結果、予算を減らしたいと思ひます。そのうえ当該の予算は、高遠高校へ行くための学生の交通費に充てさせていただきたいと思ひます。

F. 質問です。

2方法における「○作品工程」の①石取りについてです。

石取りは大変重要な作業と思いますので、硯になる石かどうかわかるための「見極めのポイント」が分かっているのであれば教えてくださいませんか。

→今回行う龍溪硯の作品制作では、高遠高等学校非常勤講師の泉先生のご厚意により、石取り、石割り、石造りの工程を終えた龍溪石をご用意いただいているため、硯彫りからの作業を予定しています。現在、石の見極めができる硯工が途絶えてしまっているため、そのポイントについては詳細がわかりません。